

# 相手の気持ちに寄り添いながら 行動する力を育てるために ～特別養護老人ホーム訪問の継続を通して～

教科・領域 総合的な学習の時間

宇部市立小野中学校全学年

## キャリア教育の観点

子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会人として自立していくことが求められている中で、特別養護老人ホームの訪問を通して、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴くとともに、自分の考えを相手に正確に伝えることができる力を育てるための取組です。

【人間関係形成・社会形成能力】【キャリアプランニング能力】

## 訪問の様子

本校では毎年近くにある特別養護老人ホームを全校で訪問し、介護等の体験活動を実施している。毎年訪問し、生徒が3年間継続して入所者の方とふれあうことで、相手の気持ちを想像しながら関わる力、相手を大事にしながらかかわる力を付けさせたいと取り組んできた。



昨年度の訪問にあたっては、事前に認知症の高齢者の姿を扱ったDVDを視聴した。これは、事前に高齢者への接し方や認知症の症状、関わり方などを理解し、訪問における留意点等を自分たちで考える



機会を設定するためである。当日の生徒の様子からもこうした事前学習による知識を自分たちなりに生かしている場面が多く見られた。

当日は、到着後、入所者の方に合唱を披露したのち、少人数のグループに分かれて、レクリエーションや食事の介助等を行った。

### 【当日の日程】

- |           |         |                 |
|-----------|---------|-----------------|
| 8 : 45 ~  | 9 : 35  | 事前指導、合唱練習       |
| 10 : 00 ~ | 10 : 20 | 施設到着、あいさつ、合唱の披露 |
| 10 : 30 ~ | 12 : 30 | ふれあい体験学習        |
|           |         | 昼食後、学校に戻り、振り返り  |

## 生徒の感想を通して

事後学習では、生徒にいくつかの質問項目を提示し、活動を振り返るとともに、自分自身の心のあり様について振り返ることにした。

◎どのような活動をしましたか。そのとき、どんなことを感じましたか。

《1年生》

- ・お年寄りの方と、貼り絵をしたり、食事の手伝いをしたりしました。貼り絵では折り紙を上手にちぎれないお年寄りの方がいらっしゃいました。私は、どういふふうに教えたらいいいのかわかりませんでした。
- ・うまく話せないと思った。

《2年生》

- ・高齢者の方と話をし、反応がないときどうすればいいのかわからなくて大変でした。
- ・ある方が私にはなしかけられて、とても良い言葉をくださった。思わず私はうれし泣きをしてしまった。

《3年生》

- ・歌を歌うと、一緒に口ずさんでくださったり、「もっと歌って」と言われることもありました。昔の歌を歌うと喜んでくださいました。
- ・3年目なので、前より気軽に話しすることができた。いろんな話をしたり、聞いたりすると喜んでくださったので、うれしかった。



感想からは、個人差はあるものの、やはり学年が上がるにつれ、生徒の経験も増し、高齢者と関わることへの抵抗感も薄れ、自らが課題意識をもちながら取り組むことができているように思われた。

## 本実践について

訪問後の生徒たちの感想には、この取組の意義や意味を改めて考えさせられるものも少なくない。例えば、3年生のある生徒が「私たち中学生ができることは数少ないです。でもその中で、精一杯お話をさせてもらうことができました」と述べていた。自分たちのできることの限界を感じつつも、任された役割を懸命に果たす姿は「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである」という中教審答申のキャリア教育の定義づけに重なると思われる。

また、2年生からは「昼食の準備のとき、スタッフさんは誰がどんなご飯なのかを覚えていてさすがだと思った」という感想があり、「働くこと」の意義を理解するとともに、中学生として自らが果たすべき役割や使命感を感じていたのではないかと思う。